

行政区域を越えた効率的な業務執行体制について

実現に向けたロードマップ

令和7年2月

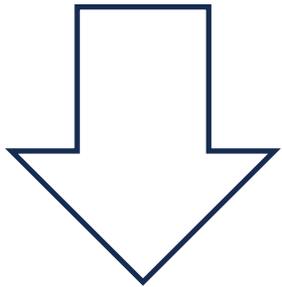
区長会議・市政改革室・市民局

目次

| | |
|---------------------|---|
| 1. 区域を越えた業務執行体制の必要性 | 1 |
| 2. 現在の取組状況 | 2 |
| 3. 今後の進め方 | 4 |
| 4. スケジュール | 7 |

1. 区域を越えた行政運営の必要性

【現状】 ニア・イズ・ベターの徹底の観点から、
各区の特性・実情に応じた区政運営を推進
局事業についても、24区共通する課題は区・局が協議・調整しながら
一体的な行政運営を推進



人口減少など社会状況の変化に伴う新たな行政課題*への対応が必要

* 多様化・複雑化する地域福祉課題への対応、子育て・教育環境の充実にに向けた施策実施、
公共施設の老朽化に対する改修・修繕等経費の増、自然災害など多発する危機事象への備え 等

これまでの取組・仕組の現状・成果を踏まえたうえで、さらなる効果的・効率的な
行政運営、市民サービスの向上を追求

⇒ **24区を残したままで、複数区のブロック化の効果的な仕組みの検討**

2. 現在の取組状況 ニア・イズ・ベターの徹底

ニア・イズ・ベターを徹底的に追求した新しい住民自治と区政運営の実現に向けて、基礎自治にかかる施策や事業は区長が決定・展開できる仕組みを構築・運用

✓ 区CM（区シティ・マネージャー）制度

区役所に分掌されていない事務のうち区長に決定権を持たせる事務について、各局横断的に総理し局長以下を指揮監督する

✓ 区長会議

区長、区CM、区担当教育次長の所管に属する事務に関し、各区において共通して取り組む必要がある事項について調査及び審議を行い、統一した方向性を決定する

施策別に設置された5つの部会（人事・財政／くらし・安全・防災／まちづくり・にぎわい・環境／福祉・健康／こども・教育）による調査・審議に加え、地域特性や課題認識を共有する区間で課題別に共通施策の策定や取組の推進を図っている（例 空家対策、待機児童解消）

✓ 区・局連携推進方針

区CMが決定権を有しない基礎自治に関わる局の施策・事業に初期段階から区長会議が関与し、施策運営の最適化の視点も含め、市民の暮らしの実感に寄り添って課題の解決を図る

2. 現在の取組状況

既存ブロックを活用した検討

市民生活に関わりの深い**道路・公園の維持管理業務**（所管：建設局 方面管理事務所）を対象として、**ニア・イズ・ベターの徹底にかか**る仕組との連携による**更なる効果的効率的な事務執行**をめざし、教育ブロックの状況も参考にしながら、ブロック単位で取り組む業務やブロック会議の組織構成等について検討を進めた



● 区CM予算のブロック単位執行 [R7年度予算より実施※]

区CM予算をブロック単位での執行も可能にすることにより、安全・安心の確保における予算執行の最適化が図られるとともに迅速な対応が可能となり、市民サービスの向上につながることを期待できる ※R7年度は建設局区CM予算についての実施

● 事務の効率化

各区個別に区CM予算の説明や区間調整を行っていたが、建設局ブロック会議の設置により一括して実施できることになり、効果的な事務執行の仕組みをつくることができた

3. 今後の進め方 (区CM事業検討)

ニア・イズ・ベターを徹底しつつ、

ブロック化による**効果的・効率的な行政運営、市民サービスの向上**に向けて、
次の3つの観点から検討を進める



- **区CM予算のブロック単位執行（令和7年度予算より実施※）の効果
が期待できる項目**についての検討 ※R7年度は建設局区CM予算についての実施

- 予算執行の最適化が図られ、市民サービスの向上につながる
- 予算編成時や執行時の説明等の事務の効率化につながる**ことが期待できる**

3. 今後の進め方 (実施単位検討)

- 課題に応じた単位設定 (区・ブロック・大阪市) について、**市民の立場に立った最適な形の検討**

- 区・ブロック・大阪市それぞれの単位を有効に活用することで、市民QOLの向上に資する市民サービス提供につながるとともに、効率的な行政運営が期待できる

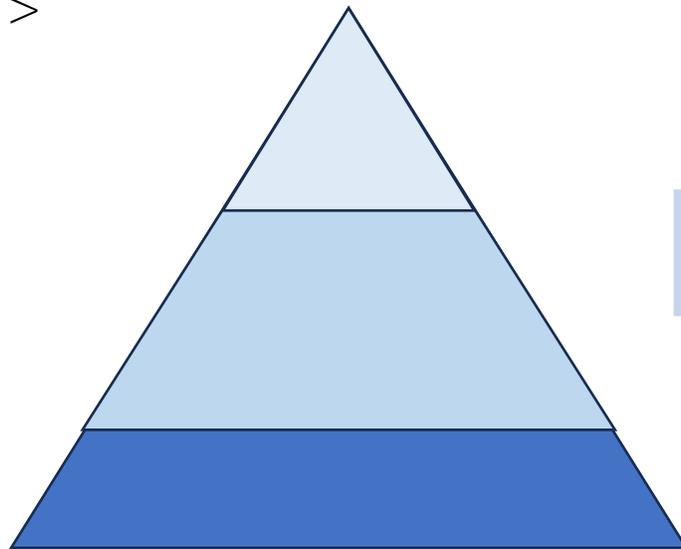
【イメージ図】

<実施単位>

〔市〕

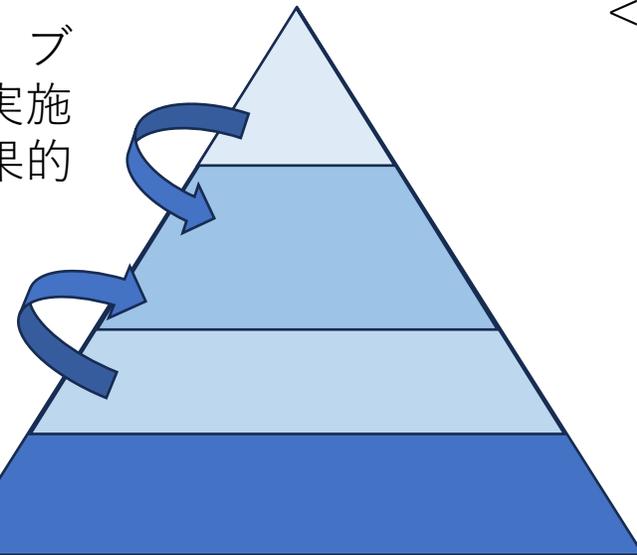
〔区〕

〔地域〕



市事業のうち、ブロック単位で実施することが効果的なもの

区事業のうち、ブロック単位で実施することが効果的なもの



<実施単位>

〔市〕

〔ブロック〕

〔区〕

〔地域〕

※区と地域団体等との連携などにより地域単位で事業展開しているものは、引き続き実施単位は「地域」とする

※※区役所事務のブロック単位執行に関してはDX推進の進捗を注視する

3. 今後の進め方（ブロック構成検討）

● 業務やエリアの特性に応じたブロック構成の検討

- 業務の内容や性質に応じた最適なブロックを構成することで、市民目線からは所管所属の枠を超えて関連性のある業務における区と局の連携が強化され、市民QOLの向上につながることが期待できる

※既存の区・局が連携するブロックも活用しながら検討を進める

- エリアの特性に応じて、市民の行政区域を越えた回遊性等も考慮しながらブロックを構成することで、新たな地域の拠点づくりの推進につながることが期待できる

4. スケジュール

